

3 当院のリニューアルした体験型糖尿病教室

山賀新一郎¹⁾・山口 朝子¹⁾・伊藤 友子¹⁾
 小林真美子¹⁾・釣巻香代子²⁾・金澤実和子²⁾
 谷黒 房子²⁾・長谷川美由紀²⁾
 井関 和代²⁾・佐野 政光³⁾・矢尾板恵美⁴⁾
 新井 雄亮⁵⁾・濱 ひとみ⁵⁾・津田 晶子⁵⁾
 矢田 省吾⁵⁾

木戸病院栄養科¹⁾
 同 看護部²⁾
 同 医事課³⁾
 同 健康づくり課⁴⁾
 同 内科⁵⁾

【はじめに】糖尿病の受診患者数が急増する中、当院の外来糖尿病教室の受講者数は年々減少傾向にあった。平成21年度は36名まで参加者数が減少した。本来、外来患者向けの教室が入院患者の教育手段として活用される場面が増加してきた。そこで、当院の糖尿病スタッフチームで検討を重ね、これまでの講義中心のプログラムから体験型の教室にリニューアルした。今回は、当院の体験型教室の紹介及び平成22年度5月～1月までの間、計9回実施した実績、問題点等について報告する。

【目的】糖尿病教室の内容をリニューアルする際、働き盛りの世代にも参加しやすく、共産化して今日から使える内容に、さらに目標を一緒に考えて、行動変容につながる糖尿病教室の運用を糖尿病スタッフチームで検討しスタートした。

【結果】参加者数は計9回の実施で昨年度の約2倍、特に30代～50代の働き盛りの世代の参加者も増加した。外来患者と入院患者の参加比率も7:3とこれまでとは逆転している。教育効果としては、初回教育の人には動機付けにはなるが知識面のフォローアップや理解度の確認が必要。体重減少が難しい患者が目立った。

【結語】糖尿病スタッフチームで検討を重ね、平成22年5月より、従来型の知識詰め込み型の教室から、体験型の教室としてリニューアルして実施してきた。当初の目的であった外来患者、特に働き盛りの参加者数を増加させることは出来た。しかし教育の効果という点では課題も確認で

きた。また糖尿病スタッフチームで検討をし今後も糖尿病患者の教育の質の向上をめざす。

4 内分泌代謝疾患患者に対する生活習慣に関する意識調査及び栄養素等摂取状況の現状と栄養指導の意義

井上華菜子・金胎 芳子*・鴨井 久司*

県立新潟女子短期大学専攻科
 新潟県立大学人間生活学部
 健康栄養学科*

【目的】外来通院患者において、生活習慣（食生活等）の実態を調査し、生活習慣病の病状進展・合併症予防の観点から今後指導すべき課題を明らかにすることを目的とした。

【方法】対象者は、外来通院の内分泌代謝疾患患者。2010年6月～7月、生活習慣に関する意識調査及び食物摂取頻度調査を実施した。外来受診時に、調査用紙の配布・説明を行い、郵送による自記式調査とした。

【結果】対象者を病態別に、糖尿病（DM）群とコントロール（C）群に分類した。栄養素等摂取量において、平均摂取エネルギー量DM群1,768±481kcal/day、C群1,984±367kcal/day、脂質エネルギー比率はDM群26.8±4.1%、C群31.2±3.3%であった。また、指示エネルギー量と実際の平均摂取エネルギー量の比較では、指示エネルギー量1,400～1,500kcalの群で平均摂取エネルギー量1,727±326kcal/day（30.8kcal/kg/day）と上回っていた。

【結論】DM群は、過去に栄養指導を受講しているが、指示エネルギー量に対する平均摂取エネルギー量、脂質エネルギー比率が多く、糖尿病合併症進展予防のために継続的な栄養指導の実施が示唆された。